

平成19年1月17日

## 愛媛大学図書館将来構想案

### I. はじめに

平成16年4月1日の法人化にあたり、愛媛大学は大学憲章を掲げ、この中で、自ら学び、考え、実践する能力と次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に輩出することを愛媛大学の最大の使命としている。

図書館委員会および図書館将来計画委員会は、大学憲章の精神のもとに、「平成13年度愛媛大学附属図書館自己点検・評価報告書」や、平成17年度文部科学省科学技術・学術審議会報告書「学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について」、他大学図書館の事例等を参考に、さまざまな角度から将来の愛媛大学図書館について検討し、「愛媛大学図書館将来構想案」としてまとめたものである。

### II. 愛媛大学図書館将来構想基本方針

愛媛大学図書館は、愛媛大学憲章とその基本目標に基づき、本学における学習、教育及び研究の学術情報基盤としての役割を果たすとともに、学術情報を蒐集・保存し、これを利用者の学習・教育・研究のために効果的に提供することを最大の使命とする。愛媛大学図書館は、基本目標を以下に定め、基本方針とする。

1. 愛媛大学図書館は、本学における学習、教育研究の発展のために必要な各種の学術情報を蒐集、保存、整理し、資料の性質に応じて可能な限り広く本学内外の利用に供する。
2. 愛媛大学図書館は、紙媒体で資料収集・保存及び提供という従来からの図書館機能に加えて、電子化資料の整備を進め、電子図書館機能の整備を図る。また、学内で蓄積された各種の学術情報を電子化し国内外に向けて発信する。
3. 愛媛大学図書館は、地域社会への施設の開放や関連機関との連携を積極的に推進し、地域社会の発展のために貢献する。
4. 愛媛大学図書館は、中央館、医学部分館、農学部分館を置き、増大する国内外の学術情報を本学の全ての構成員が共有し、有効に活用しうるよう、専門的能力の向上及び図書館システムの高度化のために不断の努力を行う。

### Ⅲ. 図書館将来構想案

#### 1. 図書館の現状

現在の図書館中央館は、40年以上前の昭和39年（1964年）に建築され、老朽化・狭隘化が著しい。さらに、図書館1階を教育学生支援部が**使用**することで、図書館利用に**支障**が発生するほか、図書館管理に制限や問題が起こる。**そのため早急に、大学の中核としての多機能・最先端の大型図書館を設置する必要がある。**

#### 2. 新図書館の目的・機能

新図書館は、愛媛大学の学術情報基盤の拠点センターとして、高度情報化社会に対応し、将来充実した教育の支援や先端的研究の支援を行うための中核施設として機能します。

##### (1) 教育支援センターとしての図書館

###### ①開放的なスペース

学生や教員を中心とする利用者が、リラックスした環境で学習・研究ができるよう、開放的で健康的なエントランススペースを設けます。また、利用時間拡大や受付カウンターでのワンストップサービス、わかりやすい図書館内の掲示により、一層の利便性が向上します。ICカードによる24時間利用も検討します。

その他、閲覧用の机・椅子は、長時間利用できるよう大きさ形状に優れたものを導入します。ブースの中では、自由に音楽や映画を楽しむことができます。さらに、休憩ゾーンとして屋外及び館内に自動販売機を設置し、飲食ができます。

###### ②豊富な図書・各種資料

学生用図書や視聴覚資料を充実するとともに、蔵書検索システムによる効率的な図書の利用と自動貸出装置による自由な貸し出しができます。これらの図書は、自動化書庫により、大量かつ迅速に図書の配架・搬出が可能となります。

###### ③充実した設備・機器

インターネット時代に即応して、自由に利用できる端末室に計200台以上のパソコンを増設配備します。大型の視聴覚機器や衛星放送・ケーブルテレビが利用でき、さらに資料作成やプレゼンテーションのために、個人でも編集できる機器を自由に利用できる編集室を設置します。

また、資格試験及び語学学習等の対応のため自習室や少人数でのセミナーもできるように、多目的な個室を設置するとともに、個人所有のパソコン用に、無線LANを館内各階に配置します。

#### ④リテラシー教育支援

また、利用者のための情報検索技術の講習会や論文作成のためのセミナーなど、リテラシー教育支援を利用者のレベルに合わせた内容できめ細かく行うことができます。

### (2) 研究支援の拡充

#### ①研究用資料の充実

これまでの文献複写サービス業務 (ILL) などは、他大学図書館との相互協力や、Web 申し込みにより迅速化を図っておりますが、研究上必要である、電子ジャーナル・二次情報データベース等をさらに計画的に充実させるほか、学内の研究論文等の電子化も支援します。

#### ②研究用図書等の集中管理

関係する学問分野が網羅して利用できるよう、体系的な蔵書整備を計画的に行います。自動化書庫内には、これまでの図書館の蔵書に加え、各研究室の図書を集約することにより、図書館による全学的な集中管理を行い、だれでも利用できるようになります。

### (3) 電子図書館 (ハイブリッド化) の促進

電子ジャーナルや二次情報データベース及び情報端末機器の充実のほかにも、情報技術を駆使したマルチメディア対応型の図書館として、学内ネットワークを通じ様々な情報提供や Web サービスを行うことができるようになります。

学内で作成された論文や学術資料や図書館所蔵貴重資料・郷土資料などを逐次電子化・蓄積し、世界に向けて情報発信を行います。

### (4) 社会貢献・社会連携の強化

図書館はまた文化施設として、所蔵している多数の貴重資料などをエントランスの展示用ケースで公開し、生涯学習施設や博物館・美術館としても社会に開放することができます。

そのほか、総合情報メディアセンターや放送大学との連携により、卒業生や退職者及び地域の住民へのサービスが一層緊密になります。

さらに、質的量的な情報量が増大する中で、他の国立大学図書館等との連携協力や県内の公共図書館との連携協力も格段に充実強化できます。

## 3. 新しい図書館の特徴

### (1) 先端的な学術情報の中核施設としての役割

学術基盤の中心となる新図書館は、城北、樽味、重信と3つのキャンパスの総合図書館として、分館のほか、各学部の研究室や研究センター等とも直接的に連携強化されます。また、学内の教育支援及び研究支援の中核施設として、様々な情報・資料を利用者に提供し、国立情報学研究所（NII）や他国立大学図書館等との連携により、世界規模のネットワークを構成することができます。

## （2）高度情報化に対応

四国という地域性にかかわらず、新図書館は、最新の情報機器・設備を導入することで、最新のデータを高速に提供できる環境を構築し、先進的な活動が展開できるほか、情報を逐次更新・導入することで、研究水準の維持と、研究分野への貢献を行うことができます。

これらのシステムは同時に、データの保存・管理における高度の情報セキュリティを保障します。

電子機器の能力が向上することで、電子的なデータを整備・保管し、ストレスのないレスポンスで学外の利用者に対して様々な学術情報を発信できます。

これらは、世界的な共同研究をスムーズに行うために、24時間利用できる体制や国際会議にも対応可能とするものです。

## （3）省エネ・機械化施設

図書館蔵書は、全て目録が完備された蔵書検索システムとICチップにより管理します。自動化書庫は、大量の蔵書を少人数で管理することを可能とします。

図書館内は、全館空調により、夏冬快適な学習ができ、明るい照明機器や防音対策も完備し、冷暖房等の管理は一元化し、また未使用部分は自動的に照明・空調を行わない省エネルギー対応とします。

また、障害者や高齢者でも不便なく利用できるようバリアフリーに基づいた設計とし、盗難や火災・事故を防止するため防犯カメラやセキュリティ機器を設置します。地震・台風などに際しても、地域および大学の防災拠点としての機能を有します。

## （4）複合施設による文化交流の拠点整備

図書館と総合情報メディアセンター、放送大学が連合することで、大学の情報基盤としての機能のほか、様々なニーズに応えることのできる生涯学習施設としての多様な活動や情報提供を行うことができます。

特に1階エントランス部分は、インフォメーション・コモンズ（情報広場）として、利用者が相互に情報を共有する交流の場とすることができます。ここでは、教育や研究に関して、さまざまな国々の人々と相互にコミュニケーションを取り

合うこともでき、インターナショナルな大学環境を作り出すことで、国際交流の場としても活用できます。

もちろん、地域住民や学生との交流の場としても、カルチャーゾーンとして、稽古事や語学研修などを行うことができます。

#### IV. 新図書館の規模及び組織

##### 1. 新図書館

新図書館の延べ面積は、算定によると17000㎡が確保できる。(現在8700㎡)  
現在の1階の面積は約1700㎡であるので、10階建ての図書館が構想される。

(参考)

国立大学図書館協議会「基準面積積算改定試案(1991年6月)」による。

S(積算面積) =

$$1.8U + 3.5G + 5.3(1.5R - 0.21U - 0.336G) \\ + 80T + 500 + 500 \text{ (本館の場合)}$$

U: 当該団地の学生定員(城北地区: 6800人)

G: 当該団地の大学院生定員(城北地区: 770人)

R: 当該団地の全蔵書冊数(単位千冊)(城北地区: 980千冊)

T: 受け入れ雑誌タイトル数(単位千タイトル)(城北地区: 13千タイトル)

$$= 16975 \text{ m}^2$$

##### 2. 組織

学術審議会報告により、図書館の組織には、一層の専門的知識を有する職員を配し、機能的かつ積極的な教育支援・研究支援等の活動を行うものとする。